出会い　ふれあい　助け合い

サロン・あべの

＜サロン・あべの＞NO．２０　　昭和６３年　２月２０日（土）発行

＜サロン・あべの＞１月の出会い

にぎやか新年会

＜サロン・あべの＞一月の出会いは、昭和六十三年一月十六日（土）午後十二時より、阿倍野の新名所の一つになっているあべの・ベルタ　の地下二階にある「とり兆」で、にぎやか新年会を持ちました。小じんまりとした店内をほぼ借り切って、十八名が集いました。

石田律さんの司会、大島功さんの乾杯の音頭で　にぎやか新年会　は、スタート。

トリ肉のバーベーキュウに舌鼓みを打ち、生ビールでホンノリいい気分になって、前の人、左右の人、あっちの人、こっちの人と、お互いに話の花を咲かせました。

いつもサロン紙を愛読下さっている大岩和呂男さんは、和歌山から愛車で初めての出席、「わがまち」誌でサロンの"おさそい"の欄を見て参加してこられたボランティアの石田秀之さんも初めて、そして、美しい声の持主で弁論大会出場経験おありの区盲協の馬越郁栄さんは、発会式以来の出席。初めての人、久しぶりにお会いする人、おなじみの人、みなさんにぎやかに盛り上がっていきました。

和やかに歓談

にぎやか新年会のたのしかった様子、反省などを大島功さんと平野祥子さんにお願いしました。

会場も、料理もよかった新年会

大島　功

新年会の会場としては、解りやすい場所で、落ち着いて食事が出来たと思います。

会費の割には、量も質も良かったと感じました。

ひとつ、欲を云えば、サロンのグループだけの部屋でやりたかったですね。

そして、始めの一時間程は、自己紹介や各自のピーアール・新年の抱負等、生の声が聞きたかった。目の不自由な者は、顔なじみが参加していても、声と名前を聞かないと分からないから、新しい人がいる時等は、再紹介してもらえると助かりますね。

又、一緒に出来るゲームがあれば、より楽しくなるのではないでしょうか。

いや、今回のも楽しかったですがね。

（大島氏との電話を冨田がまとめました。）

話はずんだ　新年会

平野祥子

一月十六日、サロン・あべの新年会に、参加させていただいて楽しい一日でした。

昨年八月、あべのカーニバル以来で、皆さんに顔を忘れられたのでは？と思いつつ私が時間に遅れたにもかかわらず、皆さん明るく迎えていただいて嬉しかった。

「とり兆」さんでの昼食と、ビール二杯もいただき、石田さんに酒のみがばれてしまいましたね。お正月の話や自己紹介に、話がはずみました。

二次会は、おしゃれなスープ店でコーヒーを石田さんに、ごちそうになり『皆で、ごちそうさまでした』

それから、旭さん・山本さん・利香さんと四人で、ベルタのお店を見学して帰りました。皆さんのあたたかさに会って、今年もサロンの方へ少しでも多く参加出来るようにと思っています。よろしくお願いします。

自立（4）

自分自身の出来る最大のことを見つけだし、
それを実行して行こうとする姿勢と努力で
自らを輝かせている加納みすずさんは…

私　輝いてます

加納　みすず

「自立」それは、私達障害者にとって永遠のテーマと言えるでしょう。

「自立」書いて字の如く自ら立つ事。と言っても、その意味を、はき違えて受取られては困ります。今、自分自身の出来る最大の事を見つけ出し、それを実行して行こうとする姿勢であり努力でしょう。

ただ単に「昨日に変らぬ今日、今日に続く明日」を過ごすようでは、自立など到底出来ないし出来るはずもないですね。ただの虚しい障害者として一生を終え、自らを輝かせる事も知らないままで…

私は今、障害者のひとりとして、障害者の立場や色々な面での思い。障害を受けても、決してその人生は屈折したものだけではなく、喜びもあり、楽しみがあると言う事を、広く社会一般の人達に知っていただき、ともすれば何でもないような事に、くよくよ思い悩み、恵まれていながら不平不満を口にし、歎き、命の大切ささえ忘れがちな人達に、もっと深い悲しみ苦しみを抱かえ、生きている人のいる事を、普遍して行き、体は健康人でも心に障害を受けている人達へ、私の文章を通じて今健康で生きている事のありがたさを、考えられる時間を持ってもらおうと言う意志を、私に託された枚方の個人紙「河北（カホク）新聞社」の代表山本烈義（レツヨシ）氏が、私に「書くように」、それを「新聞に掲載し、最終的には一冊の本にしたいとの意向を受けて、只今製作中ですが、何かにつけ「こんな私に、はたして書いて行けるのか？」と言う思いが大きな壁となり私の前にそびえ立ち、私の志を戸惑わせてしまいがちなのです。しかし、それに立ち向おうという情熱を涌き出させるものは、山本氏が私に「きっと書けるよ」と言われた言葉であり、信頼感に応えたいのです。

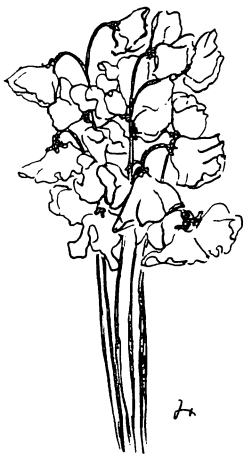
それが、今私に出来る最大の事なのです。そういう意味からすると、私は「自立している」と言えるでしょう。そして、自らを「輝かせている」と。

何にしても、自分の目的がある限り、試行錯誤をくり返しながらも、その意志を貫く覚悟です。

THE DEAF MUTE

11

旭　純子



依存の話し言葉受容手段であるため、同音異義語の区別、判断が難しく、話し手が遠く離れていたり、複数である場合、内容の全てを正確に読み取ることは困難である。と同時に、話し手の口元に神経を集中することの非常な緊張は、耐え難いもので、ろうあ者の間では、「視線はりつけの刑」という言葉もあるほどである。また、発語の場合、聴覚障害者は自分の発声音をフィードバックして聞くことが難しいため、正確な発音ができず、不明瞭になるので日常的な接触がなければ、健聴者には聞き取りにくい。さらに、口話については、口話法によるろう教育をうけたろうあ者にとっては有効であるが、未就学または口話法によるろう教育をうけていないろうあ者にとっては、有効とはいえない。口話は、ろうあ者の言語や思考の発達を促し健聴者とのコミュニケーションを可能とするが、その習得に際しては、障害の程度、習得の時期、その人の性格などによって限界がある。

（二）聴覚利用

補聴器によって聴覚を補償し、残存聴力を活用する方法である。補聴器の開発が進につれ、聴力損失度が九十dB以上（いわゆる「ろう」）でも、早期に発見して幼少時から補聴器を装用することのよって、口話によるコミュニケーションを補足できるケースも増えている。しかし、この方法のみによりコミュニケーションをはかることは困難である。補聴器への適応、音の受容という面を考えると、早期段階から、聴覚利用の教育環境、コミュニケーション場面としての正常な言語環境、健聴児との交流など、周到な配慮が必要である。

（三）筆談

筆談は聴覚障害者が一般健聴者と接する際の最も一般的なコミュニケーション手段である。しかし、筆談は、文字を媒介として文章によって音声言語をやりとりする方法であるから、音声言語的思考力や文章を書いたり、理解する能力が要求されるが、聴覚障害者の文章表現力、読解力は個人差が顕著なため、口話教育を受けていない、または未就学なろうあ者、音声言語的思考が不得意な人にとっては、一般健聴者が考えているほど、有効な手段とはならない。さらに、筆談の内容は事務的伝達に終わることが多く、会話性、情緒性に乏しいため、温かな心の通い合う人間関係を形成するためのコミュニケーション手段としては適しないと思われる。

（四）手話・指文字

手話は、ろうあ者相互の関係の中で最もよく用いられる会話法である。指文字は意味のない文字ひとつひとつに手指の動きを適応させたもので、手話にない言葉や固有名詞などを表現する場合に補足的に用いられる。

手話、指文字は視覚的言語であり、音声言語とは構造や体系を異にしており、語彙数も少ない。言語指導の成果が期待しにくいなどの点から、現在のろう教育では口話と聴覚利用が主体とされて、手話はろう教育の正課となっていない。しかし、日常生活においては、手話はろうあ者にとって、心理的圧迫感がなく、感情も発露できる。その意味で口話や筆談に比して、自然で心の通じ合う、感じ合うことばとしての機能を有している。

ろうあ者のコミュニケーション手段

ろうあ者のコミュニケーション手段として、大きく分けて口話、聴覚利用、筆談、手話・指文字の四つがあげられる。

（一）口話

読話と発語を総称して、口話と呼ぶ。読話とは、コミュニケーション受容手段として、話し手の口形やほおの動き、表情、前後の関連やその場の雰囲気などから判断して話の内容を読み取る技術をいい、発語とは、表現体として文字通り、言葉を声として発することをいう。しかし、読話は視覚

ボランティア・グループ「コスモス」

●福西和男

私達のグループ「コスモス」は、松原文化会館を拠点として、これから発展しようとする青年ボランティア友の会です。

ボランティア活動を通じて、地域福祉の実情についての勉強会を開いたり、実技を見に付けながら、青少年の仲間づくりをしていきたいと考えています。

今は、発足まもないので何もわからないのが実情ですが、一つ一つ自分達の生活をみつめながら、何ができるかを考えていきたいと思っています。

みなさまのお話を聞きながら、何かを得ようと考えていますので、よろしくお願いします。

仲間一同、＜サロン・あべの＞との今後の交流を楽しみにしています。

福祉にロマン
かよいあうハート

ふれあい広場

地域社会でしあわせに暮らしたいというのは
誰もの願いです
みんなで、からだで、こころで
ふれあいましょう

＜サロン・あべの＞は、ふれあい広場の
展示コーナー部門に参加します。
皆様のご来場　お待ちしています。

◆◆

日　時　昭和六三年三月二七日（日）
午前一〇時～午後三時

場　所　大阪市身体障害者スポーツセンター
［東住吉区長居公園内
TEL〇六－六九七－八六八一］

内　容　お祭り広場、子どもあそびコーナー
ミニ動物園、移動入浴サービス紹介・実演、ボランティア相談、展示（活動紹介、作品）コーナー、バザー、模擬店、産地直送販売。

お知らせ

＜サロン・あべの＞三月の出会い

日　時　昭和六三年三月一九日（土）午後

集　合　場所……育徳コミュニティーセンター玄関前

時間……午後一二時四〇分

出発……午後一時（時間厳守）

行き先　大仙公園ー堺市博物館

［堺市百舌鳥夕雲二ー二〇四

TEL〇七二二ー四五ー六二〇一］

内　容　「与謝野晶子

歌と書のハーモニー」

会　費　五〇〇円（入館料ほか）身体障害者手帳お持ちの方は、必ず手帳ご持参下さい。

申込み　三月五日までにお願いします。

問い合わせ先　TEL〇六ー六九一ー一〇二八

（冨田慶子）

ボランティア募集

あべのボランティア・ビューロー

電動車イスご使用の男性の方が週に一回程度、自宅での入浴を手伝ってくださるボランティアを捜しています。

詳しくはあべのボランティア・ビューローまで。

（TEL 628-3434）

編集後記

サロン・あべのはじめての新年会――障害のある人も　ない人も　だれでも簡単に行け、安くて、おいしく、みんな楽しく、にぎやかに、食事ができるところ――。最大公約数を取ることが出来ないこの新年会、幹事氏のご苦労たるや、大へんだったと思う。配慮のかいあって、「ひとりでは、なかなか行きにくいものには、よい機会だった」「お店の、人の心づかいが温かく、慣れない人も、気がるに食事することが出来た」などの声が聞かれ、にぎやか新年会まずはめでたし、めでたし。（石）

⊠ 阿倍野区ボランティア代表者会議 ⊠

昭和六十三年一月二十七日（水）阿倍野区役所二階会議室に於て、阿倍野区ボランティア代表者会議が開かれました。

昨年十二月九日に育徳コミュニティーセンターで開催された「阿倍野区ボランティア交流会」の反省と、今後の代表者会の運営について話合われました。（冨田）

＜サロン・あべの＞第２０号
発行日　昭和６３年　２月２０日（土）
発行・編集＜サロン・あべの＞運営委員会
［大阪市阿倍野区阪南町6-3-26
電話(06)691-1028冨田慶子］
印　刷　セルフ社　電話（06)652-0337
［阿倍野区阿倍野筋4-18-19］